

科目ナンバリング		G-AAA01 51101 LJ31									
授業科目名 <英訳>		自然生態論 Ecological History I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。</li> <li>・ 植生や植物（農作物、雑草、野生有用植物）を指標に、地域の環境や農業を見る視点を習得する。</li> <li>・ 文献により重要な概念を学ぶとともに、映像資料や標本をつうじてモノを覚え、フィールドでの観察力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目について、それぞれ1 - 2回ずつ講義や文献輪読を行う。各項目の順序は固定したのではなく、履修者の研究テーマや理解の状況に応じて、適宜調整する。</p> <p>(1) 植物から地域をみる 植物の多様性、栽培植物と農耕の起源、大航海時代とプラントハンター、健康を支える植物、香りと辛味の嗜好性、外来植物をどう認識するか</p> <p>(2) 農業から地域をみる 水田稲作、焼畑耕作、里山の変遷、商品作物とグローバル市場</p> <p>(3) 農業と環境 土と肥料、ミツバチの生態、農薬の功罪、遺伝子組換え作物</p>											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。 平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。</p>											
----- 自然生態論 (2)へ続く -----											

自然生態論 (2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』 (八坂書房)  
ISBN:978-4-89694-885-1

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

**(その他 (オフィスアワー等))**

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51102 LJ31									
授業科目名 <英訳>		自然生態論 Ecological History II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 古澤 拓郎			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
生態系と人間との関わり合いを、理論と研究方法論から学ぶ。理論では、生態系における人間、人類の進化と適応、環境と生存・健康といった話題を取り上げる。方法論は、フィールドワークに関わるものが中心である。 参加者がそれぞれのテーマについて調べ、それを分析し、最終的に一つの論文のような形にまとめ上げて、報告するまでの、一連の作業を習得してもらう。											
[到達目標]											
自然科学と人文社会科学を横断した理論と、フィールドワークや統計解析の手法を習得する。これらを通じて、研究者として論文を読んだり書いたりするための技術を身に着ける。											
[授業計画と内容]											
以下のスケジュールを予定している。講義だけでなく、学生には輪講や発表を課す。また、授業初回時に各学生の関心を聞き、その関心に合わせてスケジュールを変更することもある。  第1回～3回．理論編：生態系と人間／人類の進化と適応／環境と生存・健康の関わり 第4回～7回．方法論編：行動観察／環境調査／健康科学調査／統計学的手法 第8回～11回現代的課題編：生物多様性と人間／人口増加・気候変動と地域社会／環境保全の倫理 第12回～15回．成果公表編：論文執筆方法／研究発表手法											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
出席・授業中の発表・議論への積極的参加（80％）、レポート（20％）に基づき、総合的に評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
【予習】輪講などの課題は事前に読んで、専門用語や外国語の意味を調べてから授業にのぞむこと 【復習】学んだ理論・手法などは、自身の研究に取り入れられるレベルにまで復習し、次回授業とレポートに盛り込むこと											
（その他（オフィスアワー等））											
質問等は、随時メールや研究室で受け付ける。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51104 LJ31									
授業科目名 <英訳>		社会生態論 Environmental Ecology II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
熱帯生物資源の利用と保全をめぐる問題を、フィールドワークによって考察・分析する力、さらにそれを取りまとめて発表する力を身につけることを目的とします。本年度は、生物資源の管理をテーマに、輪読とレポート作成をおこないます。											
【到達目標】											
海外で臨地調査をおこなうために必要な基礎的な考察力・分析力・発信力を自主的に習得できるようになる。											
【授業計画と内容】											
講義では、関連論文の輪読とレポートの作成をおこないます。											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回～第11回											
まずつぎの論文を輪読します。											
G. Hardin (1968) 'The tragedy of the commons' Science 162, 1243-1248											
D. Feeny, et al. (1990) 'The tragedy of the commons : twenty-two years later ', Human Ecology 18-1, 1-19											
G. Hardin (1998) ' Extensions of ' The tragedy of the commons ' Science 280, 682-683											
E. Ostrom, et al.(1999) ' Revisiting the commons: Local Lessons, Global challenges. ' Science284, 278-282											
T. Dietz, et al.(2003) 'The struggle to govern the commons' Science 302:1907-1912											
E. Ostrom (2009) 'A General Framework for Analyzing Sustainability of Social-Ecological Systems' Science 325:419-422											
第12回～第14回											
前回までの生物資源の管理に関する議論と調査手法をふまえたうえで、受講生各自がそれぞれに関心をもつ分野（農業・林業・漁業など）と調査地域を対象とするテーマを設定してレポートにまとめ、発表します。											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点】											
レポートおよび出席状況により評価し、さらに授業の中での積極的な姿勢も考慮に入れます。											
【教科書】											
授業中に指示します。											
【参考書等】											
(参考書)											
授業中に紹介します。											
----- 社会生態論 (2)へ続く -----											

社会生態論 (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業初回に配布する資料を予習・復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講生も担当者もフィールドワークに出かける機会が多いので、まず初回に講義日程について話し合い、調整します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51106 LB31									
授業科目名 <英訳>		人間生態学 Field Medicine				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。											
【到達目標】											
先人たちや同時代を生きる人々のパイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。											
【授業計画と内容】											
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とパイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席と討論、ならびにレポートによって行う。											
----- 人間生態学 (2)へ続く -----											

人間生態学 (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

坂本龍太 『ブータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974

奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関することについて調べたり、自分自身の頭でよく考える。

**(その他 (オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51151 SB31									
授業科目名 <英訳>		生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太 東南アジア地域研究研究所 教授 山崎 渉			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境の特質を検討するための基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
[到達目標]											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA01 51152 SB31									
授業科目名 <英訳>		生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太 東南アジア地域研究研究所 教授 山崎 渉			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
[到達目標]											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71153 SB31									
授業科目名 <英訳>		生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太 東南アジア地域研究研究所 教授 山崎 渉			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71154 SB31											
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment IV					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田	晋也			
							アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤	拓郎			
										アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂	康之
										東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本	龍太
										東南アジア地域研究研究所	教授	山崎	渉
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。													
【到達目標】													
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文の審査に合格した者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA01 51205 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域歴史論 History and Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
日本人の歴史認識をめぐって東アジア諸国の人々とのあいだには依然としてわだかまりが存在している。現在の東南アジア諸国も、かつてさまざまな形態で日本の支配を受け、直接・間接の被害を被った。しかし東南アジア諸国は、東アジア諸国のように一般大衆レベルでも国家レベルでも、被害を訴える声を今のところあまりあげていない（その理由も考察していきたい）。そのため、20世紀前半において日本が東南アジア地域を占領していたこと自体さえ、現在日本国内では正確に認識されているのか疑問がある。東南アジア諸地域に関していかなるテーマを設定し、いかなるディシプリンでもって研究していくにせよ、自分が対象とする地域が、過去に日本とどのような関係をもっていたのか理解しておくことは欠かせない。そのため、この授業では東南アジア各国（各地域）と日本との関係を振り返り、必要に応じてより詳細な研究書にも目を通す。											
【到達目標】											
アジア・太平洋戦争期に、東南アジアの国や地域を日本がどのように統治したか、しようとしたか、各地域の比較を通して、全体像を把握する。さらに、日本の占領について、現在東南アジア各国がどのように語っているかについても、理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 担当決定、参考文献紹介 第2回 マレーシア 第3回 シンガポール 第4回 インドネシア 第5回 フィリピン 第6回 タイ 第7回 ビルマ 第8回 ベトナム 第9回 泰緬鉄道 第10回 インパール作戦 第11回 南洋 第12回 残留日本兵 第13回 東南アジアで裁判を受けたBC級戦犯（韓国・朝鮮人、台湾人） 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2											
【履修要件】											
第1回目の授業に必ず参加すること。第一回目は欠席するが、登録を希望する人はメールにて事前に連絡してください。											
----- 地域歴史論(2)へ続く -----											

地域歴史論(2)

**[成績評価の方法・観点]**

出席状況、担当回の発表のでき、積極的な発言姿勢を考慮する。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

担当回でなくとも、資料に各自目を通して授業に出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51206 LJ31									
授業科目名 <英訳>		宗教社会論 Religion and Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本年度は、宗教人類学の基礎文献講読により、アジア・アフリカの宗教現象を理解する上での基礎的な諸概念について考察する。そもそも宗教とは何か、宗教の社会的機能とは何か、宗教はいかにして人々の世界に意味を与えるのか、といった問いは、これまでも多くの研究者によって論じられてきており、そこから得られた知見は、特定の地域を越えた普遍性をもつ問題提起となっている。本講義では、まずはそうした古典的著作が提示する知見を確認したうえで、受講生各自の関心に応じて発展的な文献講読を行っていく。以上を通じ、東南アジア宗教論を学上での基礎力の涵養をめざす。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東南アジア地域研究にたずさわる上での基本語彙を養う。</li> <li>・ 東南アジア宗教に関する重要論点を理解する。</li> <li>・ 日本と東南アジアとを相互に関連づけながら問題を構成する能力を養う。</li> <li>・ 国内外の基本文献に関する知識、および、継続的に学術論文を読みながら個々の論文の問題点を抽出し討論する能力を養う。</li> <li>・ 先行文献の講読を通じ、それらを土台に自分の論文の問いを構成する訓練を行う。</li> <li>・ 討論術や配付資料づくりなどの発表技術の向上をめざす。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画は次のとおりである。</li> </ul> <p>第1回：ガイダンス  第2回 - 第6回：「宗教と世界観」（『詳論文化人類学』）の講義  第7回～第15回：各受講生の研究関心に応じた基礎文献の講読</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は 文献講読の分担（50点）、 平素点（出席・討論における発言等。50点）、により行う。											
----- 宗教社会論 (2)へ続く -----											

## 宗教社会論 (2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

桑山敬己、綾部真雄(編) 『詳論文化人類学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4-623-08271-1

### [授業外学修(予習・復習)等]

参考文献は授業中に適宜紹介するので、履修者は次回授業時までにそれらに目を通しておくことが求められる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーについては特に定めない。在室時にはいつ訪ねてきてくれてもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51207 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域関連論 State and Society II (Gender and Society)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>[テーマ：東南アジアにおける家族と社会]東南アジアでも少子高齢化が進行中である一方、国内外の移動はますます顕著になっている。そうした中で生活の根幹をなす家族はどのように展開しているのか。そもそも家族は社会のなかでどのように理論化され記述されてきたのか、その変化はどのようにとらえられるのか。ここでは、人類学の理論や東南アジア・東アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの過去から現在に至る展開とグローバル化というマクロな視点を研究の動向を追いながら学ぶ。また、現代的な問題として移動労働や高齢化とケアの問題などのかかわりを検討し、家族の領域、家族と社会のかかわりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進められる。</p> <p>[Theme : Family and Society in Southeast Asia]In a large part of Southeast Asia, aging of the population has become a recognized issue. In the meantime, there is increasing mobility both domestic and international. How are these processes affecting the realm of the family which constitute the foundation of everyday life? How has the family been described and theorized within society to begin with, and how is this evolving in the face of current changes? This class will consider both anthropological theories, micro-level ethnographic perspectives especially in Southeast and East Asia on the one hand, as well as the institutional and ideological developments on the macro level from past to present, following relevant research trends. Moreover, it will address some contemporary issues such as migrant labor, aging and care in relation to the family, and discuss how the family realm is relevant to the study of the region. There will be lectures, presentations by class participants, as well as discussion.</p>											
[到達目標]											
<p>1) 家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じる。 2) 家族を論じることを通じて、東南アジア社会について理解し、受講者各自の研究・調査において家族と社会を理解する基盤とする。</p> <p>1) To better understand fundamental issues related to the family and society, and be able to discuss these from a comparative perspective. 2) To increase understanding of the characteristics and current trends in Southeast Asian society in preparation for the participant's own research.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>I 授業の説明と序論【1週】 II 家族をめぐる議論（人類学を中心に）【2-4週】 III ジェンダーと家族【5-6週】 IV 東南アジアの家族とつながり【7-8週】 V 民族誌で読む家族と社会【9-10週】 VI 家族の制度と国家【11-12週】 VII 各論：移動と家族・高齢化とケア・LGBTと家族【13-15週】</p> <p>I Introduction 【week 1】 II Theoretical discussion of the family 【weeks 2-4】</p>											
----- 地域関連論 (2)へ続く -----											



## 地域相関論 (2)

- III Gender and family 【weeks 5-6】  
IV Family and relatedness in Southeast Asia 【weeks 7-8】  
V Reading ethnographies on family and society 【weeks 9-10】  
VI The family as institution and state 【weeks 11-12】  
VII Topics: Migration and family, intercultural marriage, care, LGBT family etc. 【weeks 13-15】

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

#### 【評価方法】

授業での議論への参加 (30%) ・ 発表 (30%) ・ 期末レポート (40%)

#### 【Method of evaluation】

Participation in class discussion (30%), class presentation (30%), final report (40%)

### 【教科書】

授業中に指示する

授業は、7区分するが、区分ごとにテキストを配布する。

Introduced during class.

The semester will be divided in seven clusters, and texts will be distributed before each cluster.

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修 (予習・復習) 等】

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を (受講者数に応じて) 分担で受け持つ。期末レポートでは、授業で扱ったテーマについて、受講者自身の研究関心との関連で論じてもらう。

Participants will be expected to be prepared to join in discussion based on the reading assignments.

Depending on the class size, they will be assigned a presentation of the major points of the reading and will be expected to lead the discussion, once or twice depending on the size of the class.

The final paper will ask the participants to review the themes in relation to their own research interests.

### (その他 (オフィスアワー等))

面談時間は随時相談に応じる

There will be no specific office hours. Students needing a one-on-one meeting are welcome to contact me to set a schedule.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51208 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域相關論 State and Society I (Comparative State Formation)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、比較の視点を踏まえつつ、インドネシア政治に焦点を当てる。1998年に32年間続いたスハルト権威主義体制が崩壊して、民主化・分権化が始まった。実態には多くの問題があるものの、この民主化・分権化は東南アジア域内で考えても、また、世界的にみても定着したと考えることができる。それでは、民主化・分権化後、インドネシア政治はどのように変貌してきているのかを本授業では検討したい。前半、主要文献に目を通した後、後半から具体的トピックとして、選挙政治、マイノリティの政治、環境の政治などを選んで、参加者の関心に沿って学んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>受講生は、東南アジア、とりわけインドネシアの政治変容を理解することができる。民主化後の権威主義体制の継続性、民主化・分権化のインパクト、政治体制と環境問題の関係など、多様な局面での政治的ダイナミズムを理解できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初回はオリエンテーション。第2回目と第3回目は、東南アジア政治の基本的文献の読み込み。第4回目から第10回目は、インドネシア政治（中央、地方）に関する文献の読み込み。第11回目と第12回目は、民主化・分権化の社会や環境へのインパクトに関する文献の読み込み。第13回目から第15回目は、受講生の発表。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での積極的発言（10点）、最低二回の発表（一回目：40点、二回目：50点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）  Ford, Michelle and Pepinsky, Thomas eds. 『Beyond Oligarchy: Wealth, Power, and Contemporary Indonesian Politics』（Cornell University Press）  Hadiz, Vedi 『Localizing Power in Post-Authoritarian Indonesia: A Southeast Asian Perspective』（Stanford University Press）  本名純 『民主化のパラドックス：インドネシアにみるアジア政治の深層』（岩波書店）  増原綾子 『スハルト体制のインドネシア：個人支配の変容と1998年政変』（東京大学出版会）</p>											
----- 地域相關論 (2)へ続く											

地域相関論 (2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

二回目までに、授業ごとに読むべき文献を提示するので、事前に文献を読み込んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51251 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するための、基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
【到達目標】											
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51252 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71253 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71254 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51309 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア史論 History of Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
東南アジア史のヒストリオグラフィーをめぐる諸問題を考察する。歴史叙述の下敷きとなるメタナラティブを自覚的に問題化する諸論考を検討しながら、新しい歴史像の模索を試みる。											
【到達目標】											
東南アジア研究の成り立ちを理解し、自らの研究も含めて歴史の文脈に位置づけて分析する視角と手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
近年、東南アジア史研究において、これまでの歴史叙述の正当性に対する疑問が提起されている。歴史叙述を検討するにあたり提起されてきた方法論をめぐる理論的議論をたどりつつ、今日東南アジア史研究において古典と目される作品をとりあげて、研究史上の位置づけ・時代的文脈を検討する。受講者は、東南アジア史一般のみならず、個々の研究テーマに応じて、それぞれ研究史上において重要とみなされている作品を、研究が生み出された時代的文脈に位置づけて歴史叙述の観点から分析・紹介し、自らの研究を位置づける作業を行なう。											
(1) イントロダクション 授業の目的と内容の概括・ガイダンス											
以下(2)～(7)について受講者の関心を配慮しつつ各1～3週を充てる。また受講者の関心に応じて適宜テーマを調整する。											
(2) 「東南アジア」の歴史的成り立ち											
(3) 「地域研究」と冷戦											
(4) 東南アジア研究と華僑華人研究											
(5) 植民地主義と自律史											
(6) 前近代と近代											
(7) 社会科学的手法											
(8) まとめ 全体を振り返り歴史的視角と手法について議論する。											
【履修要件】											
歴史研究の方法論、ヒストリオグラフィー、研究史をめぐる諸問題に強い関心があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
出席とレポート											
----- 東南アジア史論(2)へ続く -----											



## 東南アジア史論(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回事前に配布する文献に目を通してのぞむこと。

### (その他(オフィスアワー等))

主体的な授業参加を希望します。  
オフィス・アワーは特に定めません。随時メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51314 LJ31									
授業科目名 <英訳>		水循環・風土論 Hydrology and Climatology				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
水文学は地球上の水の動態や分布，水質などを対象とした学問であり，水循環や水資源，気候および水災害，環境の持続性なども取り扱う．本授業では，アジアモンスーン地域を中心に，水循環過程や人間活動と水循環の相互作用に関する講義を行う．											
【到達目標】											
水循環や風土に関する重要な研究課題について，自主的に対応できる能力を養う．											
【授業計画と内容】											
第一週 オリエンテーション 第二週から十四週 講義 第十五週 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートの内容と、毎回の授業への出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
<a href="https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/movie_kozan.html">https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/movie_kozan.html</a> (研究紹介として「インドネシアの大規模火災、その問題解決に挑む」という動画を公開しています。)											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業前に予習すべきこととしては，受講生が興味を持つ地域における水問題や気象条件を調べておくこと．											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51317 LJ31									
授業科目名 <英訳>		比較農村社会論 Comparative Studies of Rural Societies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水1	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>生活の場としての地域とそこでの人間活動の諸相（特に家族、生業、宗教）を、地域単位の生態環境や歴史、社会状況が作りあげる個別の特徴・問題と、通地域的な共通の特徴・問題の双方に結びつけて理解し、自分自身の研究関心を立ち上げるための基礎的な方法論について論じます。取り上げる事例は、東南アジアの大陸部を中心とします。</p>											
【到達目標】											
<p>地域でいま立ち上がる問題を、人間生活の多様な形とその変化・将来像についての基礎的な理解の枠組みに位置づけ、フィールドワークにもとづいて考えるという課題を遂行するための能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1～4週にかけて、文化人類学を軸とした地域研究の方法論、家族・生業・宗教からみた東南アジア大陸部の農村社会と文化の多様性、都市と農村のつながりなどに関する講義をおこないます。第5～13週は、受講者とともに、東南アジア大陸部を中心として論文や民族誌を輪読し、内容について議論します。第14～15週は、フィールドワークの方法論について、特に集めた現地の情報を民族誌的記述に練り上げるまでのプロセスについて意見交換します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点と年度末のレポート。平常点は、授業での発言と出席状況からなります。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
課題として授業中に指定する書籍と論文については、事前に読んでから授業に臨むようにしてください。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業外での面会については、事前にメール等で連絡をとるようにしてください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81318 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域研究プロジェクト・デザイン Area Studies Project Designing				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
受講生それぞれの研究プロジェクト設計を補助することを目的とする。具体的には、博士論文予備論のためのフィールドワークや文献調査を事前にデザインすることを目指す。											
【到達目標】											
フィールドワーク（文献調査を含む）で行うべきことを事前にイメージトレーニングする。自分の研究の目的を明確にし、先行研究のなかでの立ち位置を明確にする。											
【授業計画と内容】											
以下に記したようなトピックに関するホームワークの提出とその相互参照に基づく受講者参加型授業を進める。調査前のリサーチ・デザインならびに調査後データの可視化と論文構成のための力を養うことを主眼とし、博士予備論文執筆のための基礎的作業とする。奨学金情報の整理、設問分析、プロポーザル準備や文献探索方法など実効性のあるトレーニングも試みたい。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究タイムテーブルの作成</li> <li>2 - 3 研究テーマの明確化と文章化</li> <li>4 - 5 分析単位（空間的・歴史的枠組）の設定と文章化</li> <li>6 調査デザイン/論文構成に関するコンセプト・マップの作成</li> <li>7 方法論</li> <li>8 調査方法</li> <li>9 - 10 研究史レビュー</li> <li>11 リーディング・リスト設計と読解（地域）</li> <li>12 リーディング・リスト設計と読解（テーマ）</li> <li>13 文献探索方法</li> <li>14 奨学金申請のためのプロポーザル・ライティングなど</li> <li>15 まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
地域、分野、トピックを問わない。											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一連のホームワークの提出と授業への積極的な参加</li> <li>・期末提出物としてのリーディング・リスト（地域とテーマ）</li> </ul>											
----- 地域研究プロジェクト・デザイン (2)へ続く -----											

地域研究プロジェクト・デザイン (2)

**[教科書]**

授業中に指示する  
適宜指示する。

**[参考書等]**

(参考書)  
適宜指示する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

自分のホームワークを受講生人数分コピーし配布する。

**(その他(オフィスアワー等))**

アポイントメントによるオフィスアワー

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 81319 LJ31									
授業科目名 <英訳>		紛争と平和 Conflict and Peace in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では世界的に拡大しているアイデンティティ・ポリティクスの実態とその意義について検討する。まず、基本的な概念や学説について学んだあと、アジアの事例を中心に、アイデンティティ・ポリティクスの現状について、各種研究を読みながら議論する。地域研究的なアプローチがそれらの研究の発展にどのように貢献できるのか、教員を含めて出席者全員で考えたい。											
【到達目標】											
いま、世界でアイデンティティ・ポリティクスが再び注目を集めている。ナショナリズム、宗教、民族といった従来から認識されている集団的意識だけでなく、LGBTのような新しい集団意識が政治争点の重要な構成要素になっている。また、ナショナリズムのような従来型の集団意識もグローバル化やコミュニケーションツールの変化のなかで、かつてとは大きく変わりつつある。この授業では、現代におけるアイデンティティ・ポリティクスについて、各種文献を読み込み、議論することで、現代アジアのアイデンティティ・ポリティクスについて理解する。授業参加者が関心のある事例があれば、それを優先的に授業に取り上げることも考える。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション											
第2回、第3回 アイデンティティ・ポリティクス											
第4回、第5回 ナショナリズム											
第6回、第7回 民族と宗教											
第8回、第9回 移民とディアスポラ											
第10回、第11回 ジェンダーと性的少数者											
第12回、第13回 都市と農村											
第14回、第15回 レポート発表											
【履修要件】											
予備知識は必要ないが、英語か日本語の課題文献が毎回あるので、報告書でなくとも、それらを授業前に読んでおくことが求められる。原則的にシラバス通りに授業を進める予定だが、受講生の顔ぶれや関心を考慮して、ある程度柔軟に運用する。そのため、出席予定者は第1回に参加するか、欠席の場合は、第2回の授業までにメールか電話で担当教員に出席の意思を伝えること。											
【成績評価の方法・観点】											
出席点：10%											
----- 紛争と平和(2)へ続く -----											

## 紛争と平和(2)

授業での報告：30%  
授業での討論参加：30%  
最終レポート：30%

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

フランシス・フクヤマ 『アイデンティティ 尊厳の欲求と憤りの政治 』（朝日新聞出版）

### [授業外学修（予習・復習）等]

予備知識は必要ないが、事前に課題となる文献を報告者以外も読んでくる必要があるので、授業準備に一定の時間を割かなければならない。

### (その他（オフィスアワー等）)

教員との面接を希望するものはアポイントをとること。メールアドレスと研究室の内線番号は以下の通り。

nakayosi@cseas.kyoto-u.ac.jp  
075-753-7837

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51321 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジアの農業・農村 Nature and Agriculture in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアの農業・農村を理解するために本講義では、生態史の観点から考えます。生態史を理解するには、東南アジアの自然のメカニズムとその変化（自然史）を理解するとともに、東南アジアの人びとの歴史を知る必要があります。本講義では、生態史研究における基本的な考え方とそれに関連した研究手法について学んだのち、実際の研究成果を題材にしながら、自然史と人の行為が織りなす歴史について学びます。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壮大な課題と具体的課題を往還する柔軟な発想を身に着ける</li> <li>・ 生態史理解のための基礎的な研究手法を身につける</li> <li>・ 分析と総合のための思考方法を学ぶ</li> <li>・ 既存研究を活用するための多様な理解力を養う</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
1. ガイダンス 2～4. 生態史研究の基本的な考え方 5～7. 生態史研究の手法 8～10. 文明における生態環境の役割 11～13. 東南アジアの生態史 14. 総合討論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席、発表、議論への積極的参加等に基づき、総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
講義に関する質問は、メールや研究室で随時対応する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA01 81322 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア経済論 I Economic Approach to Southeast Asia I				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
東アジア・東南アジア経済に関する研究を進めるにあたって、実証・理論の両面における経済学の方法論をどのように応用できるかを講義し、考える。そのための基本となる知識や方法論を紹介し、また分野の広がり理解できるような研究展望を提供する。統計パッケージによる計量経済学的な実証分析のトレーニングも行う。											
[到達目標]											
受講者が東・東南アジアに関するそれぞれのテーマの研究に取り組む際に、経済学的な観点と方法論を主体的に加味して考察が進められるような基本知識の習得を目的とする。計量経済学的な統計分析のノウハウの習得も目的とする。											
[授業計画と内容]											
4種類の講義が用意される。どれを行うかは受講者との相談による。 1. 講師の専門分野である開発金融論に関わる2つのトピックのいずれかの講義 (A. 金融アクセス問題と金融機関の行動、B. 企業システム:所有と企業統治) 2. 経済発展と政治経済制度に関する比較研究分野の論文ないしテキストの輪読・討論 3. 講師の専門地域であるタイないしミャンマー経済の概説と研究課題について講義・輪読 4. 計量経済学的な実証分析の基礎講義と統計パッケージソフトの利用法の指南 いずれについても東・東南アジアを中心に新興国経済についての研究が主な題材となる。受講者がなるべく多くの研究と方法論に触れることができるように努めたい。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業への出欠、指定論文討議における貢献、およびタームペーパー											
[教科書]											
全体としては特になし。Reading Assignmentをトピックごと課す。											
[参考書等]											
(参考書) 講義においてトピックごとに示す。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
指定された論文を事前に読み込んでくることが求められる。論文はトピックごとに適宜指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
講義内で適宜指示します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81323 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア経済論 II Economic Approach to Southeast Asia II				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>途上国・新興国と呼ばれる国・地域の組織・企業・産業・雇用・貿易・生産網・都市化のあり方を総合的かつミクロレベルから研究するための手法を学ぶ。具体的には、産業発展の基本的なメカニズムと既存の実証研究を学び、最新の研究成果を自力で理解するための基礎知識を習得する。参考文献として、東・東南アジアを中心としつつアフリカ大陸、ラテンアメリカも含めて新興国経済についての研究成果を広く扱う。具体的な文献の選択については聴講者の関心・知識も考慮して決める。</p>											
【到達目標】											
<p>議論に参加し、担当論文を発表することで、最新の研究成果のサーチデザインを吸収し、各自の研究論文に活用する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回: 講義概要の紹介、産業発展論の現状紹介、論文の選択  第2-4回: 企業成長の制約要因とは何か（経営能力・知識、市場規模、信用等の視点から）  第5-7回: 国際生産網への参加の制約要因（取引慣行、関係特殊性、技術、企業生産性、輸送インフラ等の視点から）  第8回: 講師によるまとめと議論  第9-11回: 新興国の都市化、都市成長（衛星画像、労働移動、自然・制度条件の視点から）  第12-14回: 聴講者による発表、質疑応答  第15回: 講師によるまとめと将来の課題の精査</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加（20%）、議論への参加と発表担当論文の口頭発表（各40%）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）  初回までに以下のウェブサイト「東南アジア経済論 II」に関する講義用ページを作成し、講義で取り扱う参考文献一覧を示す。参考文献一覧は随時更新予定。</p> <p><a href="https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/machikita-tomohiro/">https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/machikita-tomohiro/</a></p>											
----- 東南アジア経済論 II (2)へ続く -----											

## 東南アジア経済論 II (2)

### [授業外学修（予習・復習）等]

受講者は次回取り上げる論文をあらかじめ読み、議論に参加することを求める。論文を理解するための統計学的手法、質的研究法、ミクロ経済学については、授業と並行して各自学習しておくことが望ましい。

### （その他（オフィスアワー等））

毎回の講義終了後に30分程度。また面談時間は随時相談に応じる。連絡先は次のとおり。machi@cseas.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51351 SB31									
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture I					担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	小泉	順子	
							東南アジア地域研究研究所	教授	石川	登	
						東南アジア地域研究研究所	教授	三重野	文晴		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	甲山	治		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	小林	知		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	中西	嘉宏		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤	雅之		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	町北	朋洋		
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理などを研究する上での、基礎的な問題設定とアプローチの方法に関する演習をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む基礎的な研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめの総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない ゼミの出席者は、積極的に質疑応答に参加するようにしてください。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたレジュメや資料、各自のノートをもとに内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにするよう心がけてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員の個別のオフィスアワーを参考にしてください。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51352 SB31									
授業科目名 <英訳>		総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture II				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子 東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之 東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関わる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたノートやレジュメ・資料などをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員ごとのオフィスアワーを参照してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71353 SB31											
授業科目名 <英訳>		総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture III				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子 東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之 東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、総合的な視点からの問題把握と研究方法についての演習をおこないます。また、博士論文の作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。													
【到達目標】													
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論													
【履修要件】													
博士予備論文の審査に合格した者。													
【成績評価の方法・観点】													
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。													
【教科書】													
使用しない 授業中に適宜指導します。													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
授業後は、配布されたやレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。													
(その他(オフィスアワー等))													
各教員のオフィスアワーを参照してください。													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA01 71354 SB31									
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture IV					担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	小泉	順子	
							東南アジア地域研究研究所	教授	石川	登	
						東南アジア地域研究研究所	教授	三重野	文晴		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	甲山	治		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	小林	知		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	中西	嘉宏		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤	雅之		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	町北	朋洋		
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、それを先端的な学術研究の動向に結びつけて発展させるための演習をおこないます。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員のオフィスアワーを参考にしてください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 61801 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
【到達目標】											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA01 71802 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71803 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51804 FJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
地域の固有性の理解を深め、研究課題を発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
<b>[履修要件]</b>											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 61805 FB31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう能力を身につける											
<b>[授業計画と内容]</b>											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
<b>[履修要件]</b>											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71806 FB31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
【到達目標】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、研究発表や討論、および研究課題に即した実践活動を行う能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											